

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.793 2020

2020年1月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本町2番11号
TEL：03-5367-6640 FAX：03-5367-6641
URL：https://www.ymcajapan.org/
発行人／神崎 清一 編集人／山根 一毅
印刷／あかつき印刷株式会社



AI時代に求められる力と その育成



OPINION

多様性のある持続可能な社会をめざして

アマゾンジャパン合同会社 社長 ジャスパー・チャン

Amazonでは、イノベーション人材の育成を目的とした「Amazon Future Engineer」*のパイロットプログラムを、日本YMCA同盟とライフイズテック社とともに、今年、開始しました。

経済産業省による通商白書では、人工知能（AI）や機械学習などのテクノロジーの有効利用を非常に重要とし、日本政府はイノベーション政策として「Society5.0」を推進しています。「Society5.0」が実現する社会では、すべての人とモノがつながり、さまざまな知識や情報が共有され、いままでにない新たな価値が生み出されます。そこではテクノロジーと社会の仕組みが連動した、「多様性を内包した持続可能な社会」の実現が求められています。

Amazonはイノベーションを通じて、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人ひとりが快適で活躍できる社会をめざして、「Society5.0」が実現する社会を共に推進したいと考えています。

しかしAIの活用は高い期待に反し、実際の企業への導入はあまり進んでいません。最大のハードルは「従業員のスキル」「AIや機械学習の導入にあたり、その利点や使用方法を理解することが難しい」の2つと言われています。Amazonは、eコマース事業を展開する中で、物流拠点での入出荷、在庫予測や管理など、数億点に上る商品の予測作業を、機械学習を活用して労力を削減し、お客さま体験を向上させてきました。Amazon Web Service（AWS）が今年提供を開始した「Amazon Forecast」は、AIや機械学習の経験がなくても使用できる時系列予測サービスで、Amazon自身がeコマース事業で得たAI活用の知識と経験をお客さまにも提供しています。

また、AIを活用するにあたり大事なことは、AIや機械学習はあくまでもツールであり、それを使い、正しい判断をするのは「人」であるということです。そのため、チーム全体がテクノロジーを理解し、あらゆる場面でテクノロジーを使って解決案を探すという考えを持ち、AIを教育できる人材を育てることが大切です。そして組織全体では、イノベーションを生み出す課題解決力を持った人材、そしてテクノロジーを運用できる人材が必要となるでしょう。

今後も、「Amazon Future Engineer」のような活動を通して日本におけるIT人材の育成を支援するとともに、日本の社会と経済の発展に貢献していきたいと考えています。

（2019年11月22日 第4回 Amazon Academy「AI時代に求められる力とその育成」より）

*「Amazon Future Engineer」は、さまざまなバックグラウンドを持つ若者に、ITやプログラミングを学ぶ機会を平等に提供するため、Amazonの行う教育プログラムです。日本では、2019年9月より、ライフイズテック株式会社と日本YMCA同盟がパートナーとなり、パイロットプログラム（プログラミング教室）を展開しました。

「誰もがテクノロジーで世界を変えられる」「多様性を認め合い、誰もが成長できる学びの場」をコンセプトに、2020年度もより多くの子どもたちへ、継続的に、この体験を届けます。

（OPINION…意味は「意見・見解」など。「THE YMCA」では毎号、関係ある団体・個人からの意見や提案を掲載します。）

●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。https://www.ymcajapan.org

子どもの成長に寄りそう

座談会『YMCA伴走サポート』が始動

『YMCA伴走サポート』(以下、『伴走』)は、「活動内容が多様なYMCAについて、どうすれば明確に理解してもらえるか」「より広く多く」の方に、“より長く”、“より深く”YMCAに関わってもらうにはどうしたらよいか」という問題意識を前提に、「YMCAにしかできないこと」「全国のYMCAで取り組めること」「子どもたちと地域社会に誠実に貢献できること」を検討し生まれました。今回は、座談会形式でYMCAの『伴走』について考えていきます。

参加者

- 田口 努さん 横浜YMCA総主事(全国YMCAチャイルドケア事業担当総主事)
- 青山 鉄兵さん 日本YMCA同盟常議員、文教大学准教授(専門・社会教育学)
- 久米あゆみさん 茨城YMCAスタッフ
- 久籾 祐介さん 埼玉YMCAスタッフ 司会 横山由利亜(日本YMCA同盟スタッフ)

YMCAの伝統ある“寄り添い”の「見える化」

司会 茨城と埼玉のYMCAでは、全国に先駆けて『伴走』を実施しています。それではまず、『伴走』とはどのようなものか教えてください。

田口 『伴走』は、これまでYMCAが行ってきた子どもや若者への「寄り添い」そのものです。「寄り添うこと」の「見える化」と言えます。アフタースクールでは、長期休暇を入れれば、学校より長い時間を子どもたちは過ごします。この時間は、子どもにとっては「自分が生かされている時間」、家庭にとっては「子どものポジティブな面が引き出される場」であり、それをエピソード記録という形で「見える化」していくことは、相互にとって価値があります。

一方、子どもたちが小学校高学年から中高生に成長した時期に、YMCAを“第二の家”として帰ってくるかどうか重要です。なぜならこの時期こそ、不登校などの深刻な悩みを抱えているからです。また、この年代は進学や塾通いをする時期でもあり、YMCAが十分に彼らとつながりきれない現実があります。子どもや若者たちの大事な成長過程において、学校教育と家庭を結ぶ社会教育の観点から、YMCAが“第二の家”となるために、いかに小学校高学年から中高生の子どもたちと継続して関わっていくか、今、それが問われています。

久米 茨城YMCAでは約1年、アフタースクールで『伴走』を導入し、喜びを感じることが増えました。見落とされがちな子どもたちの日常をエピソード記録で残し、関わる指導者への全体配信を通して共有することで、成長をタイムリーに捉えることが可能となりました。子どもたちへの声掛けや接し方も変化し、子ども自身の自己肯定感を育む要素となっています。

たとえば、保護者のお迎えが遅れるケースがありますが、担当スタッフが、子どもに「今日お迎え遅くなるよ。お母さん、〇〇ちゃんのため

『YMCA伴走サポート』とは一人の子ども、一つの家庭に寄り添いながら、一貫して子育てと子育てを応援し続ける、YMCAのオリジナルメソッドです。その子に合った成長を長い目で見守り、保護者やご家庭にフィードバックします。子どもたちの何気ない日常の様子を、『成長応援指標』に基づき記録する「エピソード記録」は、ICTを活用し、毎日スタッフ間で共有され、保育に役立てられます。

に遅くまで頑張ってくれているよ、ありがたいね」と伝えると、お迎えに来た母親にその子が「お母さん、ありがとう」と言ったんです。このような関わり方は経験の浅いスタッフにはなかなか難しいのですが、事例を記録に残してスタッフ間で共有することで、経験が蓄積されるようになりました。

司会 皆が幸せな気持ちになる、良いお話ですね。
久籾 埼玉YMCAでは一人の子どもに対して1学期間に2〜3件の記録を目標に、7月より『伴走』を始めました。業務日誌はこれまで通り作成し、それに載らないような細かなエピソード記録を残しています。

記録を始めたころは、エピソードをすぐに書ける子とそうでない子がいました。しかし、『成長応援指標』に照らすことで、「一人ひとりの子どもを見つめる」ことが意識的にできるようになりました。これは大きな変化だと思います。

定期的に行う保護者面談でも、エピソードを積み上げて保護者へ伝えることができるので、皆さん喜んでくださいます。家庭でのリアルな子どもたちの様子を聞くことも増えてきて、保護者との信頼関係に深みが生まれています。

子どもと保護者との関わりを深化、スタッフの質の向上

司会 教育の専門家のお立場からはどうでしょうか。

青山 エピソードがデータとして蓄積され、保護者にフィードバックされることはとても重要です。保育園には、保護者に子どもの様子を伝える仕組みがありますが、アフタースクールの場でもこれが定着していけば、(単なる預かりでない)『YMCAらしいアフタースクール』として意味づけられますよね。

エピソードの蓄積とともに大切になるのは、「そのエピソードの中で、大人たちが子どもとどう関わったか」を振り返ることです。YMCAらしいスタッフシップが発揮された“伴走”であるかどうか、それを問うこと、確認をすることで、スタッフの関わりを自己検証、相互研鑽の機会となり、質の向上につながるのではないのでしょうか。

『成長応援指標』というスタンダードを設けることで、支援者としての視野を広げ、共通の視点を持つことができます。YMCAのブランドコンセプトを基盤に、いわゆる「評価」のための視点ではなく「目指す成長の姿」が示されていることはとても良いですね。

全人教育の肉付け作業と『成長応援指標』

久米 これまで「YMCAは全人教育を大切にしています」と説明していても、「では、全人教育とは？」と問われるとあいまいな答えしかできませんでした。それが、今回の『伴走』で非常に具体化したと思います。もちろん、まだまだ悩みや迷いもありますが。

青山 「全人教育」について、聞いたことのあるYMCAのリーダーやスタッフは多くいますが、それを明確に説明できる人はほとんどいませんでした。まさにマジックワードです。抽象的な目標であり、それに肉付けする作業はこれまであまり重要視されて来ず、個人の経験、見識にとどまっていた。今回それがシステムとなり、実際に見るべき視点、記録すべきフォーム、保護者へのフィードバックのプロセスが目に見える形で示されたことが大きいのではないのでしょうか。

この『成長応援指標』自体も変化の余地があるものであり、それぞれの項目をどう解釈するか、話し合うことに意味があると思います。現場で悩む余地を残しておくことが大事です。

田口 学術的なメソッドで限定的に定義づけされたものではないという点で、『成長応援指標』というネーミングもいいですね。指標そのものも、これから「成長」していくと考えられる。つまり成長を応援し続けながらキーワードを高めていけるものなのですよ。

司会 一人ひとりの子どもに対して、指標に則して「他のこういうプログラムを体験できるといいね」とか、「ジュニアリーダーなどの経験を積むことでこういう成長が見られるかもしれないね」などといった子どもの成長の方針を、保護者面談の機会に、保護者の思いとYMCAで見たものをすり合わせていくような話ができるといいですね。

上手になる体験の先にある成長とそのための応援

青山 スポーツ・楽器・部活など、技術向上のみを優先する風潮もあります。YMCAは、もちろんスキーや水泳が上手になることも重視するけれど、上手になることの先の成長を大切にしてきました。そういった体験の先の成長にこだわられたかどうか、全人教育としては大切どころです。成長の要素が可視化できたことで、種目ごとの技術の向上を、全人的成長との関係の中で捉えられるようになったのはいいことではないでしょうか。

同時に、子どもは大人の目を気にしていることも事実です。エピソード記録をする、されることを、過度に子どもやスタッフが意識することがないような配慮も、今後必要になるかもしれません。

久籾 あくまで自分たちは、評価中心の学校の通知表とは別に、できるだけびびり、安心してるところを記録していきたいと思っています。

久米 成長の応援が大切で、根本は「すべての人を一つにしてください」という聖句につながるための、記録は一つの手段だと思います。

デジタル化とデータ蓄積

田口 今後を考えると、発達支援事業などは、もともと毎日が記録に追われている世界ですが、問題も多く、課題に目が行きがちです。なので、日々の記録の一つでも良いエピソードも加えていくことはできないか。誰より悩んでいる保護者が、思わず楽しくなるようなエピソードを蓄積できるのではないかと、そのような気持ちに駆られます。

記録のデジタル化によって、複数の優れたリーダーの記録を共有でき、彼らの視点を参考に子どもたちの成長を応援できるようになるので、スタッフ一人ひとりの成長にもつながります。

司会 最近は保育園でもデジタル化が進んでいますが、YMCAはこのデジタル化については出遅れています。データを積み上げることで、YMCAで

育つ子どもの今後の成長にかかる分析、健康との関連性など、経験値として残していくことは重要ですね。

久籾 日々の行動記録を残した保育ノートなどは最終的に保護者に渡すため、こちらには残りません。残すためには大量のコピーが必要になります。デジタル化することで、保護者と指導者の相互に記録が残り、成長過程も全国規模で継続してデータに残すことができるようになるので、これはとても画期的なことではないでしょうか。



今後の展開の可能性

司会 では最後に、『伴走』が進むことで、どんなYMCAになってほしいか、ひと言ずつお願いします。

久籾 『伴走』によって自分たちにも自信が生まれ、自分たちの成長にもつながると感じているので、今はワクワクしています。誰もが扱うスマホやパソコンと同じように、このツールを特別なものとしなくていいかなと期待しています。

久米 『伴走』を進めることでYMCAの良さが言葉で語られるよう具現化し、スタッフ、リーダーはもちろん、保護者までもが「YMCAを伝えられる人」になる期待を持ちます。YMCAは個を尊重する一人ひとりの集まりであることを突き詰めた時に、『伴走』、そして『成長応援指標』がより生きていくのではないかと考えています。

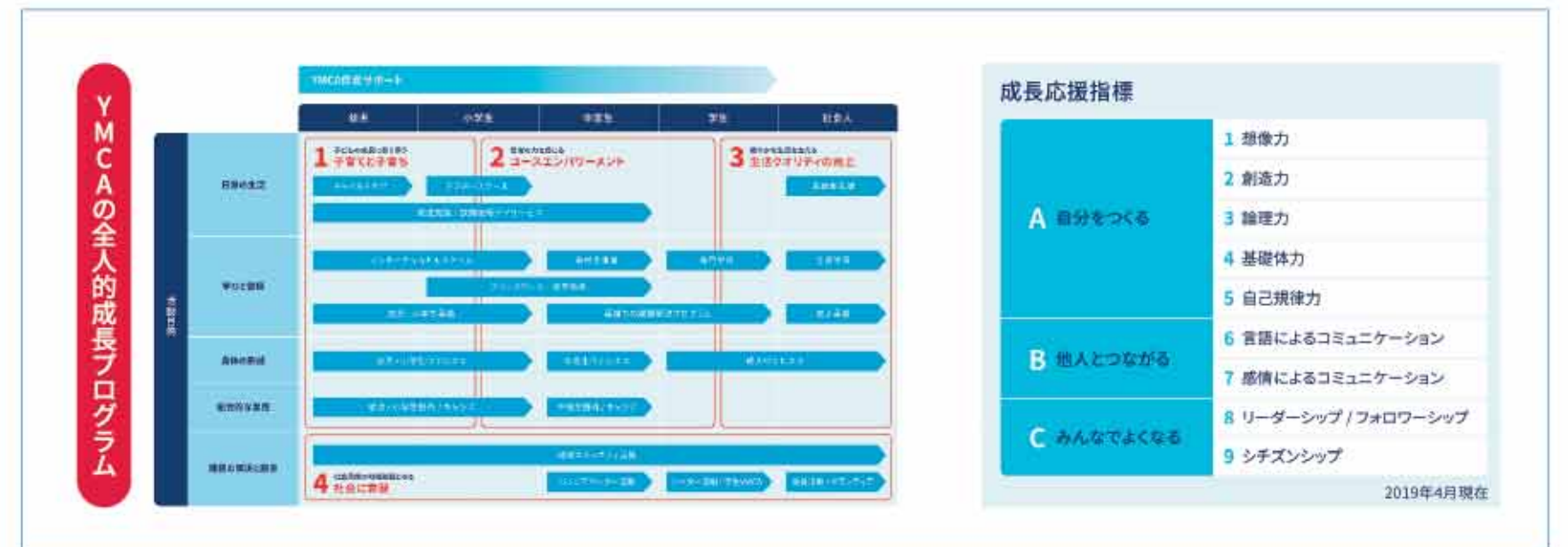
青山 現代において、YMCAは100年前のキャンプのような先駆性を発揮しづらくなっているという現実があります。新しいことにどんどん取り組んでいるNPOに比べて、YMCAは事業体としての規模も大きく、伝統的な方法が「あたり前」になりがちです。今後、100年前のような先駆的なことの芽を作っていくためにも、これまでYMCAがあたり前にしてきた理念を具現化し、実践を通して多くの方とコミュニケーションすることが重要な意味を持ちます。『伴走』とその土台となる『成長応援指標』を見る化できたことは、将来への大きな一歩となるのではないのでしょうか。

司会 『伴走』は、より本音を出しづらい、課題のある環境にいる子どもたちへの寄り添いや、自己評価の低い傾向にあるユースのエンパワーメントにも有効ではないかと、可能性が広がりますね。

田口 伴走は「伴に走る」という意味ですが、「伴に奏でる」という伴奏もあります。歌い手が気持ちよく、そして美しく奏でるためには、互いをよく見て、聞き合うことで、より良くなっていく。ポジティブネットのある豊かな社会の実現に向けて、基本的なことではあるけれどもしっかり全国でチャレンジしたいですね。この『伴走』で成長した子どもたちが、将来社会を変えるチカラになる。そんな人材を応援することは、YMCAが社会を変えるためのチャレンジになっていくと思います。



(左から)田口努さん、青山鉄兵さん、久米あゆみさん、久籾祐介さん



サーローさんに学ぶ 平和への覚悟

2017年ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)のノーベル平和賞受賞時に、スピーチをしたサーロー節子さんが広島YMCAでユースと交流しました。サーローさんは、13



サーローさんとユースたち

歳の時、学徒動員先の第2総軍司令部(爆心地から1.8km)で被爆しました。一命を取り留め、進学した広島女学院高校ではYWCA活動に熱中して、ミッション系高校の仲間とともにHi-Yを組織し、広島女学院大学時代は、広島大学YMCAの学生とともに、奉仕活動やイベントなどを主催しました。学生時代、自分たちが迷う時には、広島YMCAの故・井口保男総理事や会員の方々が、若者の「活動しようとする意志」を尊重しつつ、進むべき方向を示してくださったことを、今も感謝していると話されました。

また、原爆の傷跡が残るまだ何も無い広島で、若者が自由に活動できる場所を与えられたことが何よりの希望であり、そこで培った平和に対する考え方や人との関係性は、YMCAに集う方々の背中から多くを学んだと語られました。

サーローさんは、ソーシャルワーカーとして弱い立場の人々に寄り添い、また「敵国」「敗戦国」の反核活動家としての偏見と闘いながら、常に平和を訴え続けています。「死んでいった者のために、命ある限り訴え続けなければならない」という言葉は、ユースの心に深く刻まれたことでしょう。

広島YMCA 中奥岳生

日中韓YMCA平和フォーラム いま、私たちが描く「平和」とは —今年も、東京で開催—

2004年から始まった日中韓YMCA平和フォーラムは、日本、中国、韓国のYMCA間で2年ごとに開催され、8回目を迎える今回は、2020年2月21日から25日まで、日本・東京で開催されます。

今回のテーマは、「あたり前」の押しつけによる人権侵害が二度と起こらぬよう、過去の歴史および現代の日本、中国、韓国社会が抱える課題を踏まえ、「北東アジアの平和構築」のためにYMCAとしてどのように活動していくべきか議論をします。ユース実行委員が中心となって企画、運営を行います。

募集要項

日程 2020年2月21日～25日
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
参加対象 ユースボランティア、ユーススタッフ、理事・常議員、総主事・シニアスタッフ
参加定員 35人
参加費 25,000円
※宿泊費、会議室代、食費(21日夕食～25日朝食)が含まれます。
※ユース(35歳以下)には参加費の一部補助があります。

申込締切 2019年12月25日

詳しくはホームページをご覧ください。

日本YMCA同盟

若き日の出会い—中村哲氏に寄せて—

昨年12月4日、アフガニスタンで医療と灌漑事業の人道支援に尽くされていた中村哲医師が、銃撃によって亡くなりました。中村さんは、九州大学YMCAのメンバーで、仲間と哲学や聖書に触れ、語り合うことを通して、人間の心の問題、精神に興味を持つようになり、医学部卒業後は精神神経科に進みました。自らの価値観による正義感を押し付けず、困難を覚えている人びとの生活の中に共に身を置き、できることをひたむきに、若い時代の感受性と学び、経験が中村さんの生き方を定めました。

学生YMCAから誕生した、日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)からベシャワール赴任の打診を受けます。中村さん37歳の時です。そのとき、活動を支援するためにYMCAの仲間、志を同じくする人々たちによってベシャワール会が設立され、福岡YMCAに事務局が置かれました。

若い時代に、人との関わりを通して社会を見る目、本質を見定めるまなざしを培い、自ら行動し続けることが平和な世界を創ると、身を持って示された生涯でした。



2019年10月、ガニ大統領よりアフガニスタン市民証を授与された(ベシャワール会報No.142より)

学生YMCA・東京YMCA 2020年度新入寮生募集

全国には学生のためのYMCA寮が11カ所あり、各寮では、学生による自治を基本とした共同生活を通して、自主性と協調性を培っています。130年以上の歴史があり、多くのリーダーを社会に輩出してきたYMCA寮。現在、2020年度の新入寮生を募集中です。

関心のある方は、お気軽にお問い合わせください!

京都府

京都大学YMCA地塩寮
男女・他大学生応相談
075-751-9744
<https://chienryohp.wixsite.com/chienryo/>
京都府立医科大学YMCA橋本寮
男女・府立医科大生のみ
075-771-6913
<https://www.facebook.com/320978061417370/>

長崎県

長崎大学YMCA浦山寮
男子・長大生のみ
095-846-9241
<http://hozanryo.sakura.ne.jp/joomla/>

福岡県

九州大学YMCA一妻寮
男女・九大生のみ
092-661-6690
<https://ichibakuyymca.wixsite.com/ichibaku/>

熊本県

熊本大学YMCA花陵会
男子・熊大生のみ
096-343-1432
<http://kwaryowkai.web.fc2.com/>

北海道

北海道大学YMCA汝羊寮
男子・北大生のみ
011-736-9918
<http://www.joyouryo.com/>

宮城県

東北大学YMCA淡水寮
男女・他大学生応相談
022-249-3564
<http://www.keisuiryo.jp/>

東京都

東京大学YMCA
男女・東大生のみ
03-3811-1778
<http://todayymca.blogspot.jp/>
早稲田大学YMCA信愛学会
男女・他大学生応相談
03-3203-2858
<https://www.w63.atwiki.jp/shinai/>
一橋大学YMCA
男子・一橋大生のみ
042-572-0011
<http://hitotsubashiyymca.or.jp/>
東京YMCA山手学舎*
男子学生のみ
03-3202-7407
<https://yamategakusha.jimdo.com/>

* 学生YMCAの寮ではないが、大学生寮としてYMCAが運営。

